

# 令和元年度 財務概要

## 資金収支計算書

資金収支計算書は、教育・研究その他諸活動に対応するすべての現金・預金の収支のてん末を明らかにしたものです。

収入の部において学生生徒等納付金収入は占める割合が最も大きい科目です。今年度は在籍者数が増加したものの高校以下で入学者数が減少したことより前年度対比15百万円減の2,835百万円となりました。うち大学部門は1,630百万円、高校以下部門は1,205百万円です。手数料収入は、大半が入学検定料で、76百万円のうち65百万円を占めます。ほかにはセンター試験実施手数料収入6百万円などがあります。補助金収入は、学生生徒等納付金収入に次いで多い収入科目で、前年度対比20百万円減の1,038百万円となりました。内訳は、大学部門が209百万円、高校以下部門が701百万円、幼稚園の施設型給付補助金が128百万円です。COC地の拠点事業が昨年度で終了したことなどを要因として四日市大学の補助金が34百万円減少しています。付随事業・収益事業収入は正課以外の活動に関する収入で、補助活動収入、受託事業収入、収益事業収入の3つに分かれます。補助活動収入は、大学のコミュニティカレッジ受講料収入や小学校アフタースクール受講料、幼稚園の預かり保育料などで36百万円、受託事業収入は、研究委託を受けた企業や地方自治体からの受託研究収入で8百万円、収益事業収入は、事業部会計からの繰入収入で2百万円です。雑収入は269百万円と多額を計上していますが、そのうち243百万円は退職金財団等からの交付金収入で退職金やみなし退職者分の引当資産への繰入に対応するものです。そのほかには教室や体育館などの施設の外部への貸し出し料や高校以下のスクールバス利用料収入など18百万円も含まれます。借入金収入は、借入期間1年以内の短期借入金で前年度と同額の500百万円です。

以上の科目に前受金収入507百万円、その他収入263百万円、資金収入調整勘定△731百万円、前年度繰越支払資金1,878百万円を加算した収入の部の合計は6,688百万円となりました。

支出の部において占める割合が最も大きい科目は人件費支出です。退職者が前年度よりも多かったことから前年度対比170百万円増の2,855百万円となりました。うち大学部門は1,343百万円、高校以下部門は1,511百万円です。教育研究経費支出は、教育・研究活動に係るあらゆる経費が計上されます。主な支出科目は奨学費274百万円、修繕費157百万円、光熱水費80百万円、消耗品費44百万円などで合計780百万円です。当年度より高校から小学校までの通園バス費38百万円や補助活動費7百万円、預かり保育費3百万円を管理経費で処理することになったことから前年度比54百万円減となっています。管理経費支出は、法人運営や庶務・会計など管理部門業務、学生・生徒募集、広報活動に係る経費であり、主な支出科目は宣伝費56百万円、修繕費39百万円、印刷費27百万円などで合計278百万円です。通園バス費等、費目が増えたことで前年度比54百万円増となりました。借入金等返済支出は、借入期間1年以内の短期借入金の返済で前年度と同額の500百万円です。施設関係支出は、四日市看護医療大学新学科の実習教室改修費用272百万円で、設備関係支出は、各校で購入した教育研究用機器備品308百万円、図書19百万円などで合計348百万円です。当年度は四日市看護医療大学新学科の機器備品(196百万)や大学部門、中高、小学校

の教育用コンピュータ機器の入替え、幼稚園の通園バス(1台)の購入などがあったため 例年よりも金額が大きくなっています。資産運用支出は、退職給与引当資産への繰入額36百万円と減価償却引当資産への繰入額27百万円で合計63百万円です。退職給与引当資産は三重県私学振興会からのみなし退職交付金を一時的に繰入れて管理するもので、減価償却引当資産はコンピュータ機器更新などに備えて一定額を繰入れて管理するものです。

以上の科目に前期末未払金支払や預り金支払などのその他支出167百万円、資金支出調整勘定△120百万円、翌年度繰越支払資金1,544百万円を加算し、支出の部の合計は6,688百万円となりました。

## 事業活動収支計算書

事業活動収支計算書は、教育活動事業・教育活動外事業・特別の3つの事業ごとに収支の均衡状態を明らかにして学校法人の財務状況を把握するものです。

教育活動収支においては、収入合計が 64 百万円増えたものの人件費の退職引当金繰入や管理経費などの増加により支出合計が 102 百万円増えたことによって、収支差額は前年度より 39 百万円減少し△29 百万円とマイナスに転じました。

また、教育活動外収支は収支差額がほぼ均衡しており、特別収支の収支差額は情報機器設備の更新に対する助成金によって 21 百万円となりました。

以上3つの収支を合算した基本金組入前の当年度収支差額は、前年度より11百万円減の△8百万円となり、さらに基本金組入後の当年度収支差額は、四日市看護医療大学の教室改修工事に伴う多額の基本金組入があったことにより、前年度より258百万円減の△280百万円となりました。

## 貸借対照表

貸借対照表は、資産とその資金調達源である負債や資本を対照表で表すことによって、当該年度末時点の財政の状態を明らかにするものです。

資産の部においては、四日市看護医療大学の新学科設置に係る施設・設備の取得があったことから、流動資産が219百万円減少する一方、固定資産が225百万円増加し、資産の部合計では前年度比6百万円増の13,005百万円となりました。

負債の部ではリースによる固定資産の取得などによって前年度比11百万円増の1,484百万円となり、純資産の部では基本金組入が272百万円増加する一方、翌年度繰越収支差額が277百万円減の△7,591百万円となりました。以上の合計で負債及び純資産の部の合計は前年度比6百万円増の13,005百万円となりました。